

>>> シラス関連 文献リスト

鹿児島県工業技術センター

野元堅一郎, “未開発資源としての“シラス”について”, 九州鉱山学会誌第35巻第1号別冊, pp.85-99 (1967).

神野好孝, 國生徹郎, 中重 朗, 藺田徳幸, “シラスガラス繊維による複合体の基礎研究”, 鹿工試報告, 25, pp.33-38 (1979).

寺尾 剛, 肥後盛英, “シラスを長石の代替とした釉薬に関する基礎研究”, 鹿工試報告, 25, pp.38-39 (1979).

國生徹郎, “シラスガラス繊維によるセメント複合体の基礎研究”, 鹿工試報告, 26, pp.31-34 (1980).

國生徹郎, 中重 朗, 神野好孝, 藺田徳幸, “桜島降下火山灰の利用研究—桜島降下火山灰と珊瑚石灰石の反応について(第1報)”, 鹿工試報告, 29, pp.31-34 (1983).

神野好孝, 伊藤博雅, 田畑一郎, 東 邦雄, “多孔質セラミック新製品の品質評価”, 鹿工試報告, 32, pp.43-51 (1986).

仁科勝海, 杉尾孝一, 松久保好太郎, 蓑輪迪夫, “多孔質セラミックの応用技術研究”, 鹿工試報告, 32, pp.53-54 (1986).

寺尾 剛, 肥後盛英, 川原キクエ, 藺田徳幸, “桜島火山灰の性状と陶磁器素地及びゆう薬としての活用”, 鹿工試年報, 32, pp.69-80 (1986).

中重 朗, 間世田春作, 寺尾 剛, 神野好孝, 芳原洋一郎, 永田憲一, 島田欣二, 福島安雄, 平田好洋, “地域フロンティア技術開発事業研究成果報告書—セラミック新製品開発事業—”, 鹿児島県工業技術センター (1987).

國生徹郎, 袖山研一, 神野好孝, 藺田徳幸, “火山噴出物を活用した新素材の開発と実用化研究(第1報)—微粉碎シラスの製造とその物性—”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 2, pp.65-76 (1989).

寺尾 剛, 神野好孝, 袖山研一, 川原キクエ, “桜島降下火山灰利用による釉薬について”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 2, pp.77-83 (1989).

鹿児島県, “シラス等火山灰資源の利用と企業化”, 鹿児島国際火山会議1988論文集, pp.810-857 (1989).

袖山研一, 中重 朗, 國生徹郎, 神野好孝, 藺田徳幸, “火山噴出物を利用した新素材の開発と実用化研究(第2報)—微粉碎シラスの水熱処理について—”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 3, pp.31-39 (1990).

出雲茂人, 末吉秀一, 北村一弘, 大園義久, “火山環境における金属材料の腐食”, Boshoku Gijutsu, 39, pp.247-253 (1990).

袖山研一, 神野好孝, 中重 朗, 藺田徳幸, “火山噴出物を利用した新素材の開発と実用化研究(第3報)—微粉碎シラスを用いる高強度コンクリートへの展開—”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 4, pp.53-58 (1991).

寺尾 剛, 神野好孝, 川原キクエ, 藺田徳幸, “微粉碎シラスを用いた釉薬の研究—亀裂釉について—”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 5, pp.25-30 (1992).

西元研了, 出雲茂人, “微粉碎シラス充填系の流動特性”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 6, pp.7-11 (1993).

中重 朗, 神野好孝, 袖山研一, 田畑一郎, “シラスの微粉碎について”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 6, pp.21-24 (1993).

神野好孝, 袖山研一, 中重 朗, 田畑一郎, “火山ガラス原料の賦存状況と特性”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 6, pp.25-33 (1993).

技術おこしプロジェクト会議, “地域技術おこし事業(平成3~4年度)研究成果報告書—微細火山ガラスを活用した機能性材料の開発及び実用化—”, 鹿児島県工業技術センター (1993).

陣内和彦, 中重 朗, 神野好孝, 袖山研一, 西元研了, 中村俊一, 瀬戸口正和, 國生徹郎, “微粉碎シラスの調製と工業材料としての利用”, 資源・素材, No.A, pp.22-25 (1993).

中村俊一, “微粉碎シラスを配合した塗装材料の開発”, 塗装と塗料, No.515, pp.27-33 (1994).

中重 朗, 武若耕司, “シラス利用混合セメントに関する研究”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 8, pp.41-45 (1995).

西元研了, “微粉碎シラス及び超微粒シラスバルーンを用いたプラスチック複合材料の開発”, 成形加工シンポジウム'95, pp.157-160 (1995).

袖山研一, 目 義雄, 神野好孝, 関 博光, “ガラス質火山砕屑物からの微粒シラスバルーンの合成”, 粉体および粉末冶金, 42, pp.1128-1135 (1995).

神野好孝, 平田好洋, 國生徹郎, 濱石和人, 森田春美, 田畑一郎, “Si-C-O繊維/アルミナ系複合材料の作製と力学的特性”, Journal of the Ceramic Society of Japan 103 [10] pp.1033-1036 (1995).

袖山研一, 目 義雄, 神野好孝, 田畑一郎, “微粒シラスバルーンの合成と評価”, 日本セラミックス協会学術論文誌, 104 [10], pp.963-968 (1996).

袖山研一, 目 義雄, 神野好孝, 濱石和人, “微粒シラスバルーンの特性”, 日本セラミックス協会学術論文誌, 105 [1], pp.79-84 (1997).

(主たる研究者が所属する機関ごとに分類)

袖山研一, 目 義雄, 神野好孝, 関 博光, 西元研了, 矢崎 誠, "媒体流動床炉を用いた微粒シラスバルーンの製造プロセス", 粉体工学会誌, 34, pp.697-703 (1997).

袖山研一, 目 義雄, 神野好孝, 濱石和人, "シラス/アルミナ系軽量複合体の合成とその特性", 日本セラミックス協会学術論文誌, 105 [9], pp.815-820 (1997).

Y.Kamino, Y.Hirata, K.Sodeyama, Y.Fukushige, S.Sameshima and S.Kamata, "Preparation and Mechanical Properties of Carbon Fibers / Shirasu Glass Composites", in Proceedings of the 5th Japan International Sampe Symposium, Society for the Advancement of Material and Process Engineering, 1997, pp.523-528.

神野好孝, 袖山研一, 濱石和人, 平田好洋(鹿児島大学工学部), "炭素短繊維/シラスガラス複合材料の作製と破壊挙動", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 11, pp.25-30 (1998).

袖山研一, 目 義雄, "微粒シラスバルーンの製造と応用製品", 日本機械学会誌, Vol.101, No.951, pp.124 (1998).

袖山研一, 目 義雄, 神野好孝, 濱石和人, 國生徹郎, 関 博光, "シラスバルーンを用いた軽量陶器の作製とその特性", 日本セラミックス協会学術論文誌, 106 [3], pp.333-338 (1998).

袖山研一, "微粒シラスバルーンの開発に関する調査研究", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 12, pp.65-70 (1999).

森田春美, 神野好孝, 袖山研一, 立元 操, "微粉碎シラス混合コンクリート製造の最適条件に関する研究", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 12, pp.75-78 (1999).

目 義雄, 古林孝夫(金材技研), 袖山研一, "ガラス質火山岩から作成した微粒中空体の白色度", 日本セラミックス協会秋季シンポジウム講演予稿集, Vol.12th, pp.382 (1999).

K.Sodeyama, Y.Sakka, Y.Kamino and H.Seki, "Preparation of fine expanded perlite", J.Mater. Sci., 34, pp.2461-2468 (1999).

袖山研一, "微粒シラスバルーンの開発と利用に関する工学的研究", 学位論文(鹿児島大学) (1999).

S. Kuwaharada, Y. Hirata, K. Sodeyama and T. Terao, "Lightweight Pottery with Fine Shirasu balloon", in Proceedings of the 17th International Korea-Japan Seminar on Ceramics, 2000, pp.87-91.

目 義雄, 袖山研一, 古林孝夫, "ガラス質火山岩から作製した微粒中空体の白色度", Journal of the Ceramic Society of Japan 108 [1], pp.108-111 (2000).

目 義雄, 小沢 清, 打越哲郎, 鈴木 達, 大野 悟, 奥山秀男, 江口美佳, HATTON B(金材技研), 袖山研一, "ミクロ細孔の制御と利用に関する基礎研究", 文部科学省金属材料技術研究所研究報告集, Vol.22, pp.79-95 (2000).

惠原 要, 桑原田聡, 寺尾 剛, 澤崎ひとみ, "微粒シラスバルーンを用いた機能性陶磁器の製品開発", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 14, pp.13-16 (2001).

K.Sodeyama, Y.Sakka, K.Hamaishi, "Industrial Application of Volcanic Ejecta", 第18回日韓国際セラミックスセミナー予稿集, pp.346-350 (2001).

上 藺 剛, 尾前 宏, 永吉弘己, 袖山研一, 濱石和人, "シラスバルーンを用いた複合フェライト電波吸収体の開発", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 15, pp.53-58 (2002).

中村俊一, "太陽エネルギー制御遮熱塗料の研究—シラスバルーン塗料の遮熱性能—", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 16, pp.31-35 (2003).

吉田健一, 西 和枝, "シラス加圧成形体の水質浄化への利用", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 17, pp.29-32 (2004).

袖山研一, "微粒シラスバルーンの作製と応用", フロンティア出版『機能性微粒子とナノマテリアルの開発』, pp.247-254 (2004).

上 藺 剛, 尾前 宏, 袖山研一, 高木克彦, 大高雅彦, 林田 均, 松本 聡, 夏井秀定, 目 義雄, "パーライトを芯材とした直径1mmマイクロメタルバルーンの開発", J.Soc.Inorg.Mater.Japan, 12, pp.25-32 (2005).

K.Sodeyama, Y.Sakka, "Preparation and Utilization of Fine Expanded Perlite", Key Engineering Materials Vols., 280-283 (2005) pp.701-706.

袖山研一監修, "二十一世紀の民家をつくる—シラス物語—"農山漁村文化協会, (2005).

中村俊一, "低コスト型遮熱塗料に関する研究", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 18, pp.35-38 (2005).

上 藺 剛, 尾前 宏, 袖山研一, "シラスバルーンに機能性材料を被覆した微小金属中空球体の開発(II)", 鹿児島県工業技術センター研究報告, 19, pp.79-82 (2006).

袖山研一, 目 義雄, "媒体流動層によるマイクロガラスバルーンの製造技術", 材料科学, Vol.43, No.1, pp.20-25 (2006).

芳賀亮介, 角 徹三(豊橋技科大), 袖山研一, 星野 実(竹本油脂), “築後50年を経過した低層住宅用シラスコンクリートの諸性質について”, 日本建築学会講演梗概集A-1 材料施工, pp.105 (2006).

桑原田聡, 中村俊一, “シラスコンクリートを用いた焼成体に関する研究”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 20, pp.21-26 (2007).

袖山研一, 目 義雄, “火山噴出物ビジネスの新しい展開”, J.Soc.Inorg.Mater.Japan, 15, 496-502 (2008).

上蘭 剛, 尾前 宏, 袖山研一, 高木克彦, 大高雅彦, 林田 均, 松本 聡, 夏井秀定, 目 義雄, “シラスバルーンを芯材とした直径約100 μ mマイクロメタルバルーンの開発”, J.Soc.Inorg.Mater.Japan, 15, pp.146-154 (2008).

袖山研一, 瀬口啓久, 新村孝善, 吉村幸雄, 瀬戸口和徳, “火山噴出物を用いた軽量断熱シラス瓦の開発”, 鹿児島県工業技術センター研究報告, 22, pp.23-29 (2009).

鹿児島大学 大学院理工学研究科 海洋土木工学専攻

福島正人, “南九州産軽量骨材の利用に関する研究”, 学位論文 (1961).

武若耕司, “しらす地質の利用(特集, “土木の未来—広がる領域””, 土木学会誌, Vol.71, No.10, pp.57-58 (1986).

武若耕司, 川俣孝治, “しらすのコンクリート用骨材への利用に関する検討”, 昭和60年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.512-513 (1986).

久米国幹, 迫田順一, シラス・ガラス繊維セメント硬化体の促進試験による曲げ特性値の推定”, セメント技術年報, No.41 pp.443-446 (1987).

武若耕司, 松本 進, 川俣孝治, “しらすのコンクリート用細骨材への利用に関する基礎的研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.9, No.1, pp.7-12 (1987).

川俣孝治, 武若耕司, 手塚雅啓, 池畑富士人, “しらすを細骨材として使用したコンクリートの物性(その1) まだ固まらないコンクリートの特性について”, 昭和61年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.538-539 (1987).

手塚雅啓, 武若耕司, 川俣孝治, 池畑富士人, “しらすを細骨材として使用したコンクリートの物性(その2) 硬化コンクリートの強度特性について”, 昭和61年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.540-541 (1987).

川俣孝治, 武若耕司, 橋口寿博, 伊藤勝喜, “しらすを細骨材として用いたRC梁の曲げ性状”, 昭和62年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.584-585 (1988).

川俣孝治, 武若耕司, 松本 進, “しらすを細骨材として用いたコンクリートの実用性に関する検討”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.10, No.2, pp.577-582 (1988).

中村祐介, 武若耕司, 加固 研, “しらすを細骨材として用いたコンクリートの耐硫酸塩性能”, 昭和63年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.610-611 (1989).

武若耕司, “しらすの利用によるコンクリートの耐久性改善に関する基礎的研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.11, No.1, pp.551-556 (1989).

武若耕司, 松本 進, 川俣孝治, “しらすのコンクリート用骨材への有効利用に関する研究”, 土木構造・材料論文集, 第4号, pp.103-116 (1989).

武若耕司, “しらすの利用によるアルカリ骨材反応抑制の可能性について”, 土木学会第45回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.45, No.5, pp.508-509 (1990).

武若耕司, “しらすコンクリートとその施工性能”, 九州技報, 第7号, pp.67-74 (1990).

中尾一樹, 武若耕司, “しらすおよび桜島火山灰のポゾラン反応性について”, 平成元年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.602-603 (1990).

武若耕司, 久見瀬順一, “しらすコンクリートの施工性能に関する実験的検討”, 平成元年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.648-649 (1990).

武若耕司, 堀之内尚志, 湯田隆志, “しらすコンクリートの長期物性について”, 平成2年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.670-671 (1991).

武若耕司, 川俣孝治, “しらすコンクリートの長期強度特性および耐久性について”, 第45回セメント技術大会講演集, Vol.45, pp.484-489 (1991).

武若耕司, 樺山圭輔, 中重 朗, 平田修一郎, “しらすを利用したコンクリート用混和材の開発に関する研究”, 平成5年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.852-853 (1994).

武若耕司, “しらすを利用したコンクリート用混和材の開発に関する研究”, 材料, Vol.48, No.11, pp.1300-1307 (1999).

K.Takewaka, “Development of New Pozzolan Using "Shirasu" Particles as Concrete Admixture”, Journal of The Society of Materials Science, Vol.48, No.11, pp.1300-1307 (1999).

奥地栄祐, 武若耕司, 山口明伸, “しらすを使用した高流動コンクリートの開発に関する基礎実験”, 平成10年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.722-723 (1999).

大川孝士, 武若耕司, 森 一浩, 園田順香, “しらすを利用した吹き付けモルタルの開発に関する基礎的研究”, 平成10年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.738-739 (1999).

Eisuke Okuji, Toshinobu Yamaguchi, Koji Takewaka, “Development of self-compacting concrete with SHIRASU particles”, International symposium on high performance concrete”, Vol.2, pp.669-674 (2000).

奥地栄祐, 緒方 直, 山口明伸, 武若耕司, “しらすを使用した高流動コンクリートに関する実験的研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.22, No.2, pp.877-882 (2000).

奥地栄祐, 緒方 直, 山口明伸, 武若耕司, “コンクリート用細骨材としてのしらすの材料特性に関する基礎的検討”, 土木学会第55回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.55, No.5, pp.378-379 (2000).

緒方 直, 奥地栄祐, 武若耕司, 山口明伸, “シラスを使用した高流動コンクリートの配合設計に関する基礎的研究”, 平成11年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.824-825 (2000).

園田順香, 好本健一, 山口明伸, 武若耕司, “しらすを細骨材及び混和材として利用した吹き付けモルタルの開発に関する基礎的研究”, 平成11年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.826-827 (2000).

奥地栄祐, 武若耕司, 山口明伸, 竹内一真, “しらすを使用した高流動コンクリートの配合設計に関する研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.23, No.2, pp.985-990 (2001).

吉國美涼, 山口明伸, 馬庭秀士, 松本 進, “しらす及び人工軽量粗骨材を用いた高流動コンクリートの配合検討”, 土木学会第56回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.56, No.5, pp.326-327 (2001).

竹内一真, 山口明伸, 奥地栄祐, 松本 進, “しらすの細骨材としての特性とその評価に関する基礎的検討”, 土木学会第56回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.56, No.5, pp.344-345 (2001).

吉國美涼, 武若耕司, 山口明伸, 奥地栄祐, “しらす及び軽量粗骨材を使用したコンクリートの温度特性に関する研究”, 平成13年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.A.478-479 (2002).

西園博人, 武若耕司, 奥地栄祐, 山口明伸, “しらすを使用したプレテンション方式橋桁の耐荷力試験”, 平成13年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.A.510-511 (2002).

奥地栄祐, 武若耕司, 山口明伸, 馬庭秀士, “しらすを使用したプレテンション橋桁の実用化に関する研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.24, No.2, pp.619-624 (2002).

吉國美涼, 武若耕司, 山口明伸, 奥地栄祐, 馬庭秀士, “高流動軽量しらすコンクリートのプレテンション方式橋桁への適用に関する検討”, 土木学会第57回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.57, No.5, pp.845-846 (2002).

山口明伸, 武若耕司, 清川秀樹, 中尾好幸, “高熱・温泉環境下の橋梁基礎へのシラスコンクリートの適用に関する検討”, 土木学会第58回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.58, No.5, pp.1209-1210 (2003).

奥地栄祐, 武若耕司, 山口明伸, 竹内一真, “シラスコンクリートの配合設計に関する検討”, 平成14年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.A.506-507 (2003).

武若耕司, 清川秀樹, 奥地栄祐, 立山幸雄, “シラスコンクリートの施工性能評価”, 平成14年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.A.508-509 (2003).

奥地栄祐, 武若耕司, 清川秀樹, 中尾好幸, “高温環境下へのシラスコンクリートの適用に関する実験的研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.26, No.1, pp.681-686 (2004).

坂本 守, 武若耕司, “一般産業石炭灰とシラスを使用した石炭灰硬化体の性状”, 土木学会第59回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.59, No.5, pp.385-386 (2004).

西山理子, 武若耕司, 清川秀樹, 中尾好幸, 淵田和樹, “高温高圧環境下へのシラスコンクリートの適用に関する実験的検討”, 土木学会第59回年次学術講演会講演概要集第5部, Vol.59, No.5, pp.471-472 (2004).

西山理子, 武若耕司, 佐伯 貢, 奥地栄祐, “シラスと普通砂を混合したコンクリートの配合と力学的特性に関する実験的検討”, 平成15年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.A.474-475 (2004).

武若耕司, “シラスコンクリートの特徴とその実用化の現状”, コンクリート工学, Vol.42, No.3, pp.38-47 (2004).

西山理子, 武若耕司, 山口明伸, 佐伯 貢, “シラスと普通砂を混合使用したコンクリートの耐久性に関する検討”, 平成16年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.799-800 (2005).

山口明伸, 佐藤祐考, 武若耕司, 淵田和樹, “シラスの含水率がモルタルの特性に与える影響”, 平成16年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.827-828 (2005).

奥地栄祐, 武若耕司, 山口明伸, “細骨材にシラスを使用した高流動コンクリートに関する実験的研究”, 土木学会論文集V巻, Vol.781, V-66, pp.35-44 (2005).

西山理子, 武若耕司, 佐伯 貢, 山口明伸, “シラスと普通砂を混合使用したコンクリートの諸性質に関する研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.28, No.1, pp.125-130 (2006).

Satoshi MAEDA, Koji TAKEWAKA, Toshinobu YAMAGUCHI, “ Exposure Tests On Durability Of Concrete Using Pyroclastic Flow Deposit "SHIRASU"”, The Tenth East Asia-Pacific Conference on Structural Engineering and Construction (2006).

淵田和樹, 武若耕司, 前田 聡, 佐藤祐考, “シラスの表面水量によるシラスコンクリートの単位水量の現場補正に関する一検討”, 平成17年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.821-822 (2006).

武若耕司, “シラスコンクリートの特徴－鹿児島県制定マニュアルの内容を基にして－”, コンクリート工学, Vol.45, No.2, pp.16-23 (2007).

中崎豪士, 佐藤祐考, 前田 聡, 武若耕司, “海洋暴露されたシラスコンクリートの基礎的物性”, 平成18年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.777-778 (2007).

小出美佐都, 武若耕司, 前田 聡, “シラスコンクリートの乾燥収縮特性に関する実験的検討”, 平成18年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.783-784 (2007).

遠山裕一, 武若耕司, 前田 聡, 中尾好幸, “温泉環境下のシラスコンクリート中の劣化モニタリングに関する実験的検討”, 平成18年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.785-786 (2007).

佐藤祐考, 武若耕司, 前田 聡, 中崎豪士, “シラスコンクリートを用いたRC 部材の海洋環境下における耐久性”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.29, No.1, pp.1089-1094 (2007).

上村淳也, 武若耕司, 小出美佐都, 山口明伸, “シラスコンクリートの収縮特性に関する実験的検討”, 平成19年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.729-730 (2008).

中崎豪士, 武若耕司, 山口明伸, “大型RC部材の海洋曝露実験によるシラスコンクリートの塩害抵抗性検討”, 第63回年次学術講演会講演概要集, pp.449-450 (2008).

小出美佐都, 武若耕司, 上村淳也, 山口明伸, “シラスコンクリートの乾燥収縮ひび割れ特性に関する実験的検討”, 第63回年次学術講演会講演概要集, pp.863-864 (2008).

Toshinobu YAMAGUCHI, Koji TAKEWAKA, T.NAKAZAKI, “Long-term durability of reinforced concrete structures using “Shirasu concrete” in an actual marine environment”, The Third International Conference of Asian Concrete Federation, pp.1062-1068 (2008).

小出美佐都, 武若耕司, 山口明伸, 二河瑞規, “シラスコンクリートの収縮特性に関する基礎的研究”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.31, No.1, pp.535-540 (2009).

森高康行, 武若耕司, 山口明伸, 多々良勇貴, “温泉環境下に曝露したシラスコンクリート中の劣化モニタリングに関する実験的検討”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.31, No.1, pp.2071-2076 (2009).

多々良勇貴, 武若耕司, 山口明伸, 森高康行, “温泉環境下におけるシラスコンクリートの劣化及び鉄筋腐食に関する実験的検討”, 第64回年次学術講演会講演概要集, pp.447-448 (2009).

森嶋尚也, 武若耕司, 小出美佐都, 山口明伸, “高流動シラスコンクリートの配合設計に関する研究”, 平成20年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.775-776 (2009).

二河瑞規, 武若耕司, 小出美佐都, 山口明伸, “シラスコンクリートの自己収縮を考慮した収縮特性に関する実験的研究”, 平成20年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.809-810 (2009).

中島正志, 武若耕司, 中崎豪士, 山口明伸, “海洋環境下に2年曝露したシラスコンクリートの塩害抵抗性に関する実験的検討”, 平成20年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.837-838 (2009).

多々良勇貴, 武若耕司, 森高康行, 山口明伸, “温泉環境下に曝露したシラスコンクリート中への劣化因子浸透モニタリングに関する実験的検討”, 平成20年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.847-848 (2009).

武若耕司, “3-8 九州地区で検討中のコンクリート用細骨材の代替素材について－シラスの利用を中心として－”, Vol.48, No.1, pp.73-79 (2010).

市来賢二, 武若耕司, 森嶋尚也, 山口明伸, “低熱セメントを用いた高流動シラスコンクリートの配合検討に関する研究”, 平成21年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.721-722 (2010).

壽祐太郎, 中島正志, 武若耕司, 山口明伸, “海洋環境下に曝露したシラスを細骨材としたコンクリートの塩害抵抗性に関する基礎的研究”, 平成21年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.757-758 (2010).

福留祐一, 武若耕司, 有蘭 舞, 山口明伸, “廃石こうとシラスを用いた歩道用透水性舗装材の開発に関する基礎的研究”, 平成21年度 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.771-772 (2010).

福留祐一, 武若耕司, 有蘭 舞, 山口明伸, “廃石こうとシラスを用いた歩道用透水性舗装材の特性に関する実験的検討”, 第65回年次学術講演会講演概要集, V-133, pp.265-266 (2010).

中島正志, 壽祐太郎, 武若耕司, 山口明伸, “大型RC部材の海洋曝露実験によるシラスコンクリートの塩害抵抗性に関する検討”, 第65回年次学術講演会講演概要集, V-184, pp.367-368 (2010).

多々良勇貴, 武若耕司, 山口明伸, 森高康行, “温泉環境下におけるシラスコンクリートの劣化性状とその劣化モニタリングに関する基礎的研究”, 第65回年次学術講演会講演概要集, V-329, pp.657-658 (2010).

森嶋絢也, 武若耕司, 市来賢二, 山口明伸, “高流動シラスコンクリートの高温温泉環境下の橋梁基礎への適用性に関する実験的研究”, 第65回年次学術講演会講演概要集, V-490, pp.979-980 (2010).

鹿児島大学 大学院理工学研究科 化学生命・化学工学専攻

島田欣二, 福重安雄, “シラスの工業的利用に関する研究(第10報)シラスを原料とする微細中空ガラス球の試作”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.13, pp.51-60 (1971).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, “シラスガラスの炭素還元法によって得られる窒化物”, 窯業協会誌, 86(1), pp.5-12 (1978).

植村寿子, 染川賢一, 隈元実忠, “シラスゼオライトの合成とその利用Ⅱシラスを原料とするフォージャサイト型ゼオライトの合成とその触媒作用”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.22, pp.157-166 (1980).

島田欣二, 福重安雄, 留守成人, 室屋道子, “シラスの工業的利用に関する研究(第17報)シラスガラスーカルシウムマグネシア系ガラスの結晶化”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.23, pp.113-121 (1981).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, 末川幸弘, “シラスを原料とする炭化物焼結体の製造とその物性に関する研究ーシラスガラスからの炭化物粉体の合成について”, 鹿児島県資源開発協議会調査研究報告, No.19, pp.1-10 (1982).

植村寿子, 染川賢一, 隈元実忠, “シラスゼオライトの合成とその利用Ⅲシラスゼオライトによる金属イオン吸着”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.24, pp.145-151 (1982).

伊地知和也, 萩尾道宏, 田中安彦, “シラスを原料とする標準粉体の製法”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.24, pp.161-165 (1982).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, 末川幸弘, “シラスを原料とする炭化物焼結体の製造とその物性に関する研究ー焼結体の作製とその性質について”, 鹿児島県資源開発協議会調査研究報告, No.20-1, pp.2-17 (1983).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, 井田重信, “シラスの工業的利用に関する研究(第18報)シラスガラスーマグネシアージルコニア系におけるガラス化領域と同系ガラスの二、三の性質”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.25, pp.95-98 (1983).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, 末川幸弘, “シラスガラスとカーボンブラックから得られる炭化ケイ素粉体”, 窯業協会誌, 92(3), pp.118-125 (1984).

平田好洋, 末川幸弘, 島田欣二, “シラスガラスの炭化によって得られた β -SiC粉体の常圧及び加圧焼結”, 窯業協会誌, 92(3), pp.126-134 (1984).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, “シラスから得られた炭化物セラミックスの応用的研究”, 鹿児島県資源開発協議会調査研究報告, No.20-1, pp.2-13 (1984).

福重安雄, 平田好洋, 松下浩司, 島田欣二, “シラスの工業的利用に関する研究(第21報)シラスガラスから得られる炭化ケイ素焼結体の機械的性質及び耐化学薬品性・耐酸化性”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.26, pp.61-66 (1984).

染川賢一, 植村寿子, 隈元実忠, 島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, 松下浩司, “多孔質セラミック製造技術の開発研究(概要)”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.32, pp.56-59 (1985).

島田欣二, 福重安雄, 平田好洋, 中内則男, “シラスの工業的利用に関する研究(第22報)鹿児島県吉田産シラスの性質とメカノケミストリー”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.28, pp.137-144 (1986).

Y. Hirata, S. Kurio and K. Shimada, "Effect of Addition of CaO and ZnO on the Structure and Properties of Shirasu Glass", in Proceedings of the Kagoshima International Conference on Volcanoes, Kagoshima Prefectural Government, 1988, pp.778-781.

島田欣二, “火山噴出物(シラス)の有効利用”, 日本温泉気候物理医学会雑誌, Vol.51, No.4, pp.210-212 (1988).

染川賢一, 植村寿子, 前原隆夫, “シラスゼオライトの合成”, 資源・素材, No.U, pp.17-20 (1988).

岩松 暉, 福重安雄, 郡山 榮, “シラスの応用地質学的諸問題”, 地学雑誌, Vol.98, No.4, pp.1-22 (1989).

前田 滋, “有機ヒ素化合物の分解とヒ素の資源化”, 環境科学会年会一般講演・シンポジウム・プログラム, Vol.1991, pp.331 (1991).

平田好洋, 浜崎桂二, 福重安雄, “シラスバルーン軽量焼結体の耐熱と破壊予知”鹿児島県資源開発協議会調査研究報告, No.31-1, pp.31-39 (1994).

幡手泰雄, 越牟田聡, 上村芳三, 平田好洋, 伊地知和也, “シラスマイクロバルーン製造装置の開発”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.36, pp.95-99 (1994).

隈元康郎, 中 俊彦, 植村寿子, 染川賢一, “シラスゼオライト類の放射性廃棄物処理への応用”, 日本化学会講演予稿集, Vol.67th, No.2, pp.1363 (1994).

植村寿子, 大久保欣史, 細川賢一, “シラスゼオライト類の放射性廃棄物への応用(2) Sr²⁺, Cs⁺の固定化”, 日本化学会講演予稿集, Vol.67th, No.2, pp.1363 (1994).

Y. Hirata, K. Hamasaki and Y. Fukushige, "Thermal Shock Resistance and Dielectric Properties of Shirasu Balloon/Ferroelectric Composite", in Proceedings of International Symposium on Environmental Issues of Ceramics, the Ceramic Society of Japan, 1995, Edited by H. Yanagida and M. Yoshimura, pp.255-263.

吉澤秀和, 濱川直樹, 幡手泰雄, “循環流動層型シラスマイクロバルーン製造装置の開発”, 鹿児島科学研究所報告, No.6, pp.11-15 (1995).

染川賢一, 植村寿子, “シラスゼオライト類の新しい利用分野の開拓(その3)ゼオライトのCsイオン交換”, 鹿児島科学研究所研究報告, No.6, pp.57-64 (1995).

HATATE Y, UEMURA Y, IJICHI K, KATO Y, HANO T, BABA Y, KAWANO Y (Miyazaki Univ., Miyazaki), “SPG膜乳化器によるGPC用充填ポリマービーズの調製”, J Chem Eng Jpn, Vol.28, No.6, pp.656-659 (1995).

伊地知和也, 長井壯一, “シラスマイクロバルーンを芯物質としたポリスチレンミクロスフェアの調製”, 鹿児島科学研究所研究報告, No.7, pp.33-37 (1996).

染川賢一, 植村寿子, 西俣郁男, “シラスゼオライト類の新しい利用分野の開拓(その4)シラス, ケイ石, 白土からのポルサイト合成”, 鹿児島科学研究所研究報告, No.7, pp.49-57 (1996).

伊地知和也, 長井壯一, “シラスマイクロバルーンを芯物質とした複合粒子の製造”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.38, pp.127-130 (1996).

平田好洋, “シラスバルーン軽量焼成体の耐熱衝撃性と破壊予知”, VSI研究会ニュース, 12, (2), pp.5-7 (1997).

HATATE Y, OHTA H, UEMURA Y, IJICHI K, YOSHIZAWA H, “しらす多孔質ガラス膜乳化技術によるトナー粒子用の単分散重合体ミクロスフェアの合成”, J Appl Polym Sci, Vol.64, No.6, pp.1107-1113 (1997).

Y. Hirata, Y. Fukushige, H. Kuwazuru, R. Yamashita, S. Sameshima and Y. Kamino, "Electrical Properties of Carbon Fiber / Shirasu Glass Composite", Journal of Physics and Chemistry of Solids, 58 (9), pp.1443-1449 (1997).

福重安雄, 平田好洋, “微粒シラスバルーンの強度”, 鹿児島県資源開発協議会調査研究報告, No.35-1, pp.16-20 (1998).

染川賢一, 植村寿子, 渡辺ゆか, “シラスゼオライトの用途開発 抗菌剤としてのAg-P型シラスゼオライトの着色防止”, 鹿児島科学研究所報告, No.9, pp.27-34 (1998).

大木 章, 徐 炎華, 前田 滋, “アルミニウム担持シラスゼオライトを用いるヒ酸アニオンの吸着除去”, 日本分析化学会年会講演要旨集, Vol.47th, pp.86 (1998).

平田好洋, 鮫島宗一郎, 黒木優子, 矢倉真仁, “微粒シラスバルーンを用いる高級軽量セラミックス製品の製造技術に関する研究”, 平成10年度中小企業創造基盤技術研究事業研究成果報告書, 材料・プロセス技術, 10-14, 1999, pp.1-58.

XU Y, OHKI A, MAEDA S, “アルミニウム担持シラスゼオライトによるヒ素, フッ素, リン酸アニオンの除去”, 日本化学会講演予稿集, Vol.76, No.1, pp.482 (1999).

鮫島宗一郎, 平田好洋, “微粒シラスバルーンを用いた多孔質セラミックスの製造”, 鹿児島県資源開発協議会調査研究報告, No.37-1, pp.21-28 (2000).

平田好洋, 鮫島宗一郎, 国分政憲, 吉田洋行, “微粒シラスバルーンを用いる高級軽量セラミックス製品の製造技術に関する研究”, 平成11年度中小企業創造基盤技術研究事業研究成果報告書, 材料・プロセス技術 10-14, 2000, pp.1-56.

池田 智, 吉田昌弘, 上村芳三, 幡手泰雄(鹿児島大), 吉沢秀和(岡山大 環境理工), 河野恵宣(宮崎大 工), “SPG膜と膨潤法を利用した単分散型高分子ミクロスフェアの開発 GPC充填剤への応用”, 鹿児島大学工学部研究報告, No.42, pp.149-153 (2000).

XU Y, OHKI A, MAEDA S, “アルミニウム担持シラスゼオライトによるひ酸塩, リン酸塩, 及びふっ化物イオンの除去”, Toxicol Environ Chem., Vol.76, No.1/2, pp.111-124 (2000).

鯨島宗一郎, 平田好洋, “微粒シラスバルーンを用いた多孔質セラミックスの製造”, 火山珪酸塩工業講演会要旨集, 2001, pp.35-42.

和田浩之, 半崎伸司, 伊地知和也, 大角義浩, 上村芳三, 幡手泰雄, 根津修美雄(チヨダウーテ), “シラスマイクロバルーンのかさ密度に及ぼす気流層製造装置温度の影響”, 化学工学会九州支部大会研究発表講演要旨集, Vol.2002, pp.85 (2002).

和田浩之, 半崎伸司, 伊地知和也, 大角義浩, 上村芳三, 幡手泰雄, 根津修美雄(チヨダウーテ), “気流層型シラスマイクロバルーン連続製造装置の開発”, 化学工学会秋季大会研究発表講演要旨集, Vol.35th, pp.673 (2002).

和田浩之, 伊地知和也, 大角義浩, 上村芳三, 幡手泰雄, 根津修美雄(チヨダウーテ), “シラスマイクロバルーンのかさ密度に及ぼす気流層運転条件の影響”, 化学工学会年会研究発表講演要旨集, Vol.68th, pp.407 (2003).

梅崎祥一, 植村寿子, 袖山研一, 染川賢一, “シラス等からケイ酸カルシウム系耐熱材料の合成”, 第14回化学関連支部合同九州大会講演予稿集, pp.77 (2004).

独立行政法人 国立高等専門学校機構 鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科 (旧土木工学科)

樋渡重徳, 斎藤利一郎, 原口誠夫, “火山灰を細骨材として利用した火山地帯におけるコンクリートの開発に関する研究(第2報)”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.17, pp.73-80 (1983).

内谷 保, 斎藤利一郎, 吉井英雄, 榎並利征, “鉄筋で補強されたしらすコンクリート版部材の力学的性状に関する実験的考察”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.18, pp.111-118 (1984).

原口誠夫, 樋渡重徳, “天然軽石を用いたコンクリートの硫黄含浸に関する実験的研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.18, pp.119-124 (1984).

原口誠夫, 松田林樹, 永道昭夫, “火山灰砂を用いたコンクリートの混和剤による強度変化について”, 土木学会西部支部研究発表会, Vol.1984, pp.91-92 (1985).

斎藤利一郎, 内谷保, 榎並利征, 汐満哲広, “霧島温泉地帯におけるコンクリートの腐食対策に関する実験的研究 I”, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, Vol.1984, pp.492-493 (1985).

斎藤利一郎, 内谷 保, 榎並利征, “霧島温泉地帯におけるシラスコンクリートの耐久性に関する研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.19, pp.93-102 (1985).

樋渡重徳, 田中光徳, 池田正利, “シラス微粉末を利用した軽量骨材の基礎的研究—第2報—”, 土木学会西部支部研究発表会, pp.476-477 (1985).

岡林 巧, 松元弘巳, 堤 毅一, 塩月敬司(鹿児島土木設計), “桜島火山灰の拡散と粒度分布特性”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.20, pp.91-98 (1986).

斎藤利一郎, 榎並利征, “霧島温泉地帯におけるエポキシモルタルの耐久性に関する研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.20, pp.113-119 (1986).

池田正利, 原口誠夫, 樋渡重徳, 田中光徳, “シラス砂を細骨材としたコンクリートに関する基礎的研究”, 土木学会第42回年次学術講演会, pp.606-607 (1987).

斎藤利一郎, 榎並利征, “霧島温泉地帯におけるモルタルの耐久性に関する基礎的研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.21, pp.85-92 (1987).

池田正利, 原口誠夫, “しらす砂を用いたコンクリートに関する基礎的研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.23, pp.149-156 (1989).

松元弘巳, “火山灰を用いたコンクリートおよびセラミックスの開発と実用化に関する研究(課題番号01850173)平成1-22年度文部省科学研究補助金試験研究(2)研究成果報告書(文部省S)”, No.01850173, pp.89 (1991).

前野祐二, 平田登基男, “桜島降灰の力学特性について”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.27, pp.89-94 (1993).

斎藤利一郎, 岡林 巧, 大竹孝明, 三原めぐみ, 榎並利征, 中重 朗(鹿工技セ), “石炭灰・火山灰・しらすの有効利用に関する研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.30, pp.27-35 (1995).

原口誠夫, 池田正利, “南九州特有の骨材の有効利用に関する研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.30, pp.47-53 (1995).

三原めぐみ, 大竹孝明, 斎藤利一郎, 岡林 巧, 有村正吾, 和田伸一, 中重 朗(鹿工技セ), “火山灰, しらすおよび石炭灰の造粒物による水中からの鉄イオン, マンガンイオンの分離”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.30, pp.97-104 (1995).

大竹孝明, 三原めぐみ, 中村春美, 岡林 巧, 斎藤利一郎, “シラスを利用した水溶液からの陽・陰イオンの分離”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.34, pp.1-4 (1999).

岡林 巧, 宮田俊哉, 兵動正幸(山口大), 荒牧憲隆(崇城大), “桜島土石流流出火山灰の三軸せん断特性”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.40, pp.25-30 (2005).

長山昭夫, “桜島火山灰の養浜土砂としての利用価値を検証する基礎的研究”, 鹿児島工業高等専門学校研究報告, No.42, pp.35-40 (2007).

学校法人 都築教育学園 第一工業大学 自然環境工学科 (旧土木工学科)

玉井元治, 田中光徳, “軽石を用いたまぶしコンクリートの吸音特性”, 第46回セメント技術大会講演要旨, pp.954-959 (1992).

玉井元治(近畿大 理工), 田中光徳, “シラス軽石を用いた吸音性コンクリート” セメント・コンクリート論文集, No.47, pp.736-741 (1993).

田中光徳, 玉井元治, 関口 修, “シラス軽石を用いた多孔性コンクリートの吸湿特性”, 第50回セメント技術大会講演要旨, pp.158-159 (1996).

田中光徳, 玉井元治, 関口 修, “シラス軽石を用いた多孔質コンクリートの空隙と吸湿性”, 第51回セメント技術大会講演要旨, pp.416-417 (1997).

田中光徳, 玉井元治(近畿大 理工), 関口 修(佐藤道路研), “シラス軽石を用いた多孔質コンクリートの空隙と吸湿性”, セメント・コンクリート論文集, No.51, pp.888-893 (1997).

田中光徳, 玉井元治, 岡林悦子, “多孔性コンクリートを用いた河川浄化に関する研究”, セメント・コンクリート論文集, No.52, pp.772-777, (1998).

岡林悦子, 田中光徳, 徳山ミヨーキン, 難波礼治, 岡林 巧, “緑化ポーラスコンクリートに関する研究”, 第一工業大学研究報告, No.22, pp.81-88 (2010).

宮崎県工業技術センター

河野幹雄, “シラス利用による非焼成建材の開発研究～シラス・セメントを基材とするタイルの試作～”, 宮崎県工業試験場研究報告, No.25, pp.39-44 (1981).

中島忠夫, 清水正高, 河野幹雄, “シラス多孔質ガラスに関する研究(第6報)ー多孔質ガラスの機械的強度と耐熱性ー”, 宮崎県工業試験場報告, No.29, pp.19-24 (1984).

中島忠夫, 清水正高, “カルシウムアルミノホウケイ酸塩系多孔質ガラス”, セラミックス, Vol.21, pp.408-412 (1986).

中島忠夫, 清水正高, “多孔質ガラス膜によるエマルジョンの精密ろ過”, 化学工学論文集, Vol.15, No.3, pp.645-651 (1989).

合谷祥一, 山野善正, CHEN E(香川大 農), 中島忠夫, “O/Wエマルジョンのクリーニング速度”, 油化学, Vol.42, No.12, pp.972-977 (1993).

中島忠夫, 清水正高, “多孔質ガラス膜による単分散O/Wエマルジョンの調製”, 化学工学論文集, Vol.19, No.6, pp.984-990 (1993).

中島忠夫, 清水正高, 久木崎雅人, “膜乳化法の単分散O/Wエマルジョン生成に及ぼす界面活性剤の影響”, 化学工学論文集, Vol.19, No.6, pp.991-997 (1993).

中島忠夫, 清水正高, “多孔質ガラス膜の液体透過性と膜の微構造”, J. Ceram. Soc. Japan, Vol.101, No.5, pp.528-532 (1993).

東 秀史, 清水正高, 瀬戸口敏明, “膜乳化法を用いて水溶性抗癌剤を封入した新しいリピドエマルジョンの開発”, DDS, Vol.8, pp.59-61 (1993).

中島忠夫, 清水正高, “多孔質ガラス膜によるエマルジョンの精密ろ過に及ぼす油分濃度の影響”, 化学工学論文集, Vol.20, No.4, pp.468-474 (1994).

久木崎雅人, 中島忠夫, 清水正高, “SPG膜による精密ろ過におけるO/Wエマルジョンのサイズ分離と荷電効果”, 宮崎県工業試験場・宮崎県食品加工研究開発センター研究報告, No.39, pp.21-25 (1995).

南条昌史(サンスター), 中島忠夫, “SPC膜乳化法によるO/Wエマルジョンの安定化”, 日本化粧品技術者会誌, Vol.31, No.2, pp.149-157 (1997).

佃 智基, 清水正高, 久木崎雅人, 中島忠夫, “乳化型DDS製剤の製造技術に関する研究(第1報) 膜乳化プロセスにおけるW/Oエマルジョンの解乳化と阻止条件”, 宮崎県工業試験場・宮崎県食品加工研究開発センター研究報告, No.41, pp.29-34 (1997).

中島忠夫, 久木崎雅人, 松田成信, “ガラス組成物と高分子溶液における相分離とそれにより得られる膜構造の違い”, 宮崎県工業技術センター・宮崎県食品開発センター研究報告, No.44, pp.29-35 (2001).

久木崎雅人, 中島忠夫, 清水正高, “非対称多孔質ガラス膜の調製と精密ろ過における膜構造の効果”, 膜(MEMBRANE), Vol.27, No.6, pp.324-330 (2002).

清水正高, 中島忠夫, 久木崎雅人, “浸透圧を駆動力にしたW/Oエマルジョンの粒径制御”, 化学工学論文集, Vol.28, No.3, pp.304-309 (2002).

清水正高, 中島忠夫, 久木崎雅人, “膜乳化法によるW/Oエマルジョンの調製と単分散乳化の至適条件”, 化学工学論文集, Vol.28, No.3, pp.310-316 (2002).

清水正高, 中島忠夫, “膜乳化による単分散W/O/Wエマルジョンの生成およびその安定性”, 膜(MEMBRANE), Vol.31, No.1, pp.51-56 (2006).

清水正高, “膜乳化法を用いたナノスケール食品の開発”, フードナノテクノロジー(中嶋光敏, 杉山 滋(監修)), pp.114-125 (2009) (株)シーエムシー出版

山本建次, 清水正高, “金属液滴の新たな微細化方法の開発”, 宮崎県工業技術センター・宮崎県食品開発センター研究報告, No.54, pp.21-24 (2010).

独立行政法人 産業技術総合研究所 九州センター (旧九州工業技術研究所)

松田応作, 原 尚道, 井上憲弘, 安納美代子, “オートクレーブ硬化体のケイ酸質原料としてのシラスについて”, セメント技術年俵, 22, 485-489 (1968).

松田応作, 原 尚道, 井上憲弘, 亀井秀一, “熱水前処理によるシラス-石灰系硬化体の強度について”, セメント技術年俵, 23, 418-422 (1969).

黒岩忠春, 松田応作, 原 尚道, 井上憲弘, 安納美代子, “選別シラスを基材とするオートクレーブ硬化体の強度について”, 九州工業技術試験所報告 [1] 45-52 (1969).

諫山幸男, 陣内和彦, 古賀義明, “シラスの有効利用に関する選鉱学的研究(第2報)シラスの優先粉碎について”, 九州工業技術試験所報告 [3] 167-173 (1970).

原 尚道, 井上憲弘, 松田応作, 亀井秀一, “シラス-石灰系ALCの諸特性”, セメント技術年俵, 24, 351-355 (1970).

諫山幸男, “シラスバルーン”, セラミックス, 6 [11] 25-31 (1971).

広末英晴, 松田応作, 古賀悦之, 橋爪 豊, “シラスを原料とする“パーライト”の製造とその性質について”, 窯業協会誌, 78 [11] 435-439 (1971).

原 尚道, 井上憲弘, 松田応作, “シラス-石灰系ALCについて”, 石膏と石灰, No.110, 26-30 (1971).

黒岩忠春, “シラス利用製品”, 工業と製品, No.53, pp.121-128 (1972).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスを原料とする微細中空ガラス球(シラスバルーン)の製造(第1報)-シラスバルーンの製造条件について”, 九州工業技術試験所報告, [7] 397-408 (1972).

広末英晴, 河野幹雄, “充填層型流動層によるシラス中の火山ガラスと結晶質の分離について”, 九州工業技術試験所報告, [8] 474-478 (1972).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスを原料とする微細中空ガラス球(シラスバルーン)について”, 窯業協会誌, 80 [2] 84-91 (1972).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスバルーンの乾式分離試験”, 九州工業技術試験所報告, [9] 541-546 (1973).

木村邦夫, 大西俊次, “シラスバルーン-ポリスチレン系複合材の溶融粘度”, 九州工業技術試験所報告, [10] 607-609 (1973).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスバルーン原料としての軽石流の適性について”, 日本鉱業会誌, 90 [1031] 39-44 (1974).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスを原料とする微細中空ガラス球(シラスバルーン)の製造(第2報)-産地別シラスの原料特性について”, 九州工業技術試験所報告, [12] 687-697 (1974).

原 尚道, 井上憲弘, 松田応作, 早淵英樹, 吉村篤, “シラスパーライト利用オートクレーブ養生コンクリートについて”, セメント技術年俵, 28, 364-367 (1974).

黒岩忠春, “酸性火山灰類の工業材料資源としての可能性”, 日本鉱業会誌, 91, pp.625-634 (1975).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスバルーンの密度と強度の測定について”, 粉体工学会誌, 12 [9] 513-518 (1975).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, “シラスバルーンの密度と強度の測定について”, 九州工業技術試験所報告, [14] 784-790 (1975).

木村邦夫, 浜野健也, “シラス中の火山ガラスの加熱発泡性について”, 窯業協会誌, 84 [2] 71-75 (1976).

木村邦夫, 陣内和彦, “シラスに含まれる火山ガラスの基礎的性状について-加熱発泡体原料としての黒曜岩等との対比-”, 九州工業技術試験所報告, [16] 869-878 (1976).

木村邦夫, 陣内和彦, 浜野健也, “シラスに含まれる火山ガラスの加熱発泡機構について-加熱発泡体原料としての黒曜岩等との対比-”, 九州工業技術試験所報告, [17] 958-965 (1977).

陣内和彦, 木村邦夫, 諫山幸男, “シラスの有効利用に関する選鉱学的研究(Ⅳ)－火山ガラスと結晶質鉱物の分離について－”, 九州工業技術試験所報告, [17] 965-975 (1977).

原 尚道, 井上憲弘, 松田応作, “80～100℃におけるシラス－石灰系水熱反応”, 窯業協会誌, 87, 86-94 (1979).

原 尚道, 井上憲弘, “Formation of 10Å and 14Å tobermorite from pozzolanic glassy silica”, Proc. 7th Int. Congress on the Chemistry of Cement, Paris, Vol.3, VI-13-18 (1980).

恒松修二, 松田応作, “シラスを主原料とする結晶化泡ガラスとその発泡機構”, 九州工業技術試験所報告, [24] 1505-1514 (1980).

陣内和彦, 木村邦夫, 立山 博, 恒松絹江, 横田 章(中国工技試), “赤泥単味, 赤泥－シラス・風化花こう岩焼成体について”, 九州工業技術試験所報告, [25] 1585-1592 (1980).

立山 博, 木村邦夫, 陣内和彦, 恒松絹江, 黒岩忠春, “インドネシア産火山噴出物を用いた軽量発泡体の製造とその軽量パネルへの応用”, 九州工業技術試験所報告, [25] 1593-1604 (1980).

立山 博, 木村邦夫, 陣内和彦, 恒松絹江, 神尾 典, 渡辺明子, “軽量発泡体を用いたモルタルの各種成形法による試作とその成形体の物性”, 九州工業技術試験所報告, [25] 1605-1615 (1980).

梅林正気, 小林和夫, 諫山幸男, 中村光徳, “シラスとA Iの混合粉末成形体の窒化”, 窯業協会誌, 88 [7] pp.361-367 (1980).

原 尚道, 井上憲弘, 松田応作, “80°～100℃におけるシラス－石灰系水熱反応”, 九州工業技術試験所報告, [24] 1477-1486 (1980).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, 恒松絹江, “加熱発泡体原料としてのインドネシア産火山ガラスの性状”, 九州工業技術試験所報告, [27] 1723-1730 (1981).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, “インドネシア産火山ガラスの現状とその加熱発泡体について”, 窯業協会誌, Vol.89, No.1028, pp.208-215 (1981).

立山 博, 木村邦夫, 陣内和彦, 恒松絹江, “火山ガラスの風化による変化と加熱発泡性について”, 粘土科学第22巻第1号, pp.1-10 (1982).

井上憲弘, 原 尚道, “石灰, セッコウ存在下におけるフライアッシュ, 水さいおよびシラスのゲル化ならびに硬化特性”, セメント技術大会講演要旨, Vol.36th, pp.50-51 (1982).

木村邦夫, 立山 博, 陣内和彦, 恒松絹江, “シラスに含まれる火山ガラスの粒子形状によるガラス構造の変化と加熱発泡性”, 窯業協会誌, 90 [9] 503-510 (1982).

立山 博, 木村邦夫, 陣内和彦, 恒松絹江, “火山ガラスの風化による変化と加熱発泡性について”, 粘土科学, 22 [1] 1-10 (1982).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, 恒松絹江, “北海道産火山灰の加熱発泡体原料としての適性について”, 日本鉱業会誌, 98 [1137] 1117-1122 (1982).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, 恒松絹江, “空気脈動によるシラスバルーンの乾式分離について”, 日本鉱業会誌, 99 [1145] 561-566 (1983).

木村邦夫, 陣内和彦, 諫山幸男, 立山 博, 濱崎廣教(イチヂ化成), “シラスバルーン利用による油吸収材について”, 九州工業技術試験所報告, [31] 2041-2045 (1983).

吉田 章, 井上耕三, 原 尚道, 諫山幸男, “シラス火山ガラスからの水ガラスの溶出”, 九州工業技術試験所報告, [31] 2047-2052 (1983).

吉田 章, 井上耕三, 原 尚道, 諫山幸男, “シラス火山ガラスからのメタケイ酸ナトリウム含水結晶の直接製造法”, 九州工業技術試験所報告, [31] 2053-2058 (1983).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, 恒松絹江, “空気脈動によるシラスバルーンの乾式分離について”, 日本鉱業会誌, Vol.99, No.1145, pp.561-566 (1983).

木村邦夫, “火山ガラス質堆積物による加熱発泡体の製造”, 学位論文(東京工業大学), (1984).

原 尚道, “ケイ酸カルシウム水和物の合成と性状に関する研究”, 学位論文(東京工業大学), (1985).

原 尚道, “けい酸カルシウム系材料の開発 シラスからもみから灰まで”, 日本産業技術振興協会技術資料, No.145, pp.1-11 (1985).

渡辺明子, 神尾 典, 木村邦夫, 陣内和彦, “シラス微細中空ガラス球状体(シラスバルーン)とそのセメント複合体の諸特性”, 九州工業技術試験所報告, [34] 2247-2256 (1985).

吉田 章, 井上耕三, 川村圭一(福岡大工), “シラス－酸化ナトリウム系焼成物の塩酸中和ヒドロゲルからのY型ゼオライトの合成”, 日本化学会誌, No.1, pp.14-21 (1985).

神尾 典, 守 明子, 谷地秀則(INAX), 久保正親(INAX), “押出成形したセメント製品の施釉加工について”, 九州工業技術試験所報告, [36] 2421-2427 (1986).

井上耕三, 吉田 章, “シラスの化学的処理による脱鉄”, 九州工業技術試験所報告, [37] 2322-2327 (1986).

上野英俊, 秋山 茂, “シラスを用いた発泡アルミニウム”, 九州工業技術試験所報告, [37] 2355-2361 (1986).

木村邦夫, 濱崎廣教(イヂチ化成), 立山 博, 陣内和彦, “シラスバルーンの乾式分離のための2, 3の基礎的実験”, 九州工業技術試験所報告, [37] 2389-2396 (1986).

井上耕三, 吉田 章, “シラスを原料としたA型ゼオライトの合成と粒径の制御”, 日本化学会誌, No.5, pp.658-664 (1986).

甲斐田泰彦, 吉田 章, 有田静児, “シラス火山灰一酸化ナトリウム系熔融焼成物から合成したゼオライトのイオン交換特性”, 九州工業技術試験所報告, [38] 2475-2477 (1987).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, 濱崎廣教(イヂチ化成), “シラスを原料とする高強度ガラスの開発”, 資源・素材, No.U pp.5-8 (1988).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, 濱崎廣教(イヂチ化成), “シラスを原料とする低熱膨張ガラス及び高強度ガラスについて”, 九州工業技術試験所報告, [43] 2757-2764 (1989).

吉田 章, 井上耕三, “シラス火山灰から合成した水ガラスを原料とするY型ゼオライトの合成”, 九州工業技術試験所報告, [44] 2783-2794 (1990).

秋山 茂, 上野英俊, 北原 晃, “発泡アルミニウムの物性に及ぼす気泡率の影響”, 九州工業技術試験所報告, [46] 2889-2894 (1991).

木村邦夫, 陣内和彦, 立山 博, “水熱処理したシラス粉砕物を原料とする微粒シラスバルーン”, 日本セラミックス協会学術論文誌, 99 [12] 1240-1244 (1991).

木村邦夫, 濱崎廣教(イヂチ化成), 立山 博, 陣内和彦, “酸化アルミニウムと炭酸リチウムを添加したシラス焼結体”, 九州工業技術試験所報告, [46] 2913-2915 (1991).

木村邦夫, 濱崎廣教(イヂチ化成), 立山 博, 陣内和彦, “炭酸リチウムを添加したシラス焼結体”, 九州工業技術試験所報告, [46] 2917-2920 (1991).

木村邦夫, 陣内和彦, “微粒シラスバルーン原料としての福島県産白土の適性試験”, 九州工業技術試験所報告, [47] 2985-2993(1991).

濱崎廣教(イヂチ化成), 立山 博, 木村邦夫, 陣内和彦, “シラスとモミガラ炭・竹炭からSiCの合成”, 資源と素材, Vol.111, No.8, pp.559-563 (1995).

濱崎廣教(イヂチ化成), 木村邦夫, 立山 博, 陣内和彦, “シラスを主原料とする窒化焼結体の製造”, 資源処理技術, Vol.42, No.2, pp.63-69 (1995).

濱崎廣教(イヂチ化成), 松下博通(九大 工), 諫山幸男(九州共立大 工), “シラスの有効利用に関する研究 シラスの発泡体およびシラス軽砂の吹付けモルタル原料としての有効性”, 資源処理技術, Vol.43, No.2, pp.50-59 (1996).

木村邦夫, 岡田博美, “微粒中空ガラスフィラー製造プロセスおよび装置の検討”, 九州工業技術研究所報告, [56] 3507-3514 (1996).

木村邦夫, “シラス微粒中空ガラス”, 工業材料, Vol.45, No.7, pp.102-106 (1997).

木村邦夫, “加工技術が引き出すガラス系素材の新機能 シラス微粒中空ガラス”, 工業材料, Vol.45, No.7, pp.102-106 (1997).

陣内和彦, 木村邦夫, “火山噴出物(シラス)の工業的な高度利用について”, 資源処理技術, 46[4] 230-237 (1999).

Dae-Yong SHIN, Kunio KIMURA, “Preparation of TiO₂-Coated Hollow Glass Microspheres from Titania-Hydrate-Coated Fine Volcanic Glass”, Journal of Ceramic Society of Japan, 107 [9] 775-779 (1999).

木村邦夫, 太 源弼, 陣内和彦, “微粒シラスバルーン原料としての大分県玖珠地方に産する火山ガラス質堆積物の性質”, 資源と素材, 115 [6] 443-447 (1999).

李 尚勲, 木村邦夫, 申 大容, 太 源弼, “Tetra-n-Butoxy Titanium からの加水重合体の加熱分解法による酸化チタン被覆中空シラス球状体の開発”, 資源と素材, 115 [2] 107-110 (1999).

原 尚道, “非晶質シリカによるジェナイトとトパライトの合成”, J Soc Inorg Mater Jpn, Vol.7, No.285 pp.133-142 (2000).

柳 然太, 木村邦夫, “VあるいはWをドーピングしたTiO₂被覆中空シラス球の製造と光触媒の特性”, 資源と素材, 118 [3, 4] 206-210 (2002).

その他

Maynard P. Bauleke, “What's new in Volcanic Ash for Industry? ”, Stage Geological Survey of Kansas Bulletin 157, part3 (1962).

大庭 昇, 露木利貞, 海老原紘子, “シラスの鉱物組成, 化学組成および成因について(II)”, 岩石鉱物鉱床学会誌 58巻4号, pp.152-160 (1967).

持永良一, 中島忠夫, 国府俊則, “シラスを原料にした多孔質ガラスの製造”, 都城工業高等専門学校研究報告, No.13, pp.77-81 (1978).

鹿児島県資源開発協議会, “明日の資源『シラス』”, (1979).

柳沢延房, 宮沢雅文, 楠 史勝, 大村敏八, “シラス軽量コンクリートの研究”, 日本国土開発技術研究報告, No.1, pp.99-109 (1981).

斉藤浩子, 及川紀久雄(新潟薬大), 坂元隼雄, 鎌田政明(鹿児島大 理), “イオンクロマトグラフィーによる火山灰可溶性成分の迅速分析”, 地球化学, Vol.16, No.2, pp.43-47 (1982).

国府俊則, “シラスを原料とする装色ガラスの製造”, 都城工業高等専門学校研究報告, No.16, pp.17-23 (1982).

国府俊則, “シラス—アルカリ金属酸化物(Na_2O または Li_2O)—酸化ホウ素—酸化カルシウム系ガラスの相分と高ケイ酸質多孔質ガラスの製造”, 都城工業高等専門学校研究報告, No.17, pp.35-41 (1982).

横尾義貫, 定方 啓, 角 徹三, 鈴木伸治, 田中進司, 永島茂雄(豊橋技科大), “粗・細骨材に火山灰を利用したコンクリートに強度特性に関する基礎実験”, 日本建築学会東海支部研究報告, pp.33-36 (1982).

国府俊則, 浅野真弘, “シラス多孔質ガラスの細孔制御”, 都城工業高等専門学校研究報告, No.18, pp.23-29 (1983).

横尾義貫, 定方 啓, 角 徹三, 永島茂雄, 古籾武紀, 園山博之(豊橋技科大), “粗・細骨材に火山灰を利用したコンクリートに強度特性に関する基礎実験(その2)”, 日本建築学会東海支部研究報告, pp.1-4 (1983).

横尾義貫, 定方 啓, 角 徹三, 永島茂雄(豊橋技科大), “粗・細骨材に火山灰を利用したコンクリートに強度特性に関する基礎実験(その2)”, 日本建築学会大学学術講演梗概集(北陸), pp.1-4 (1983).

坂元忠実(宮崎大農), “細骨材にシラスを用いたモルタルおよびコンクリートについて”, 宮崎大学農学部研究報告, Vol.31, No.2, pp.213-222 (1984).

藤本 廣, 荒巻英次, “しらすを母材としたソイルセメントの締固の特性と透水性”, 第16回日本道路会議論文集, pp.223-224 (1985).

角 徹三, 中村聖吾(豊橋技科大), “細骨材にシラスを利用したコンクリートの基礎的実験”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1-3 (1985).

角 徹三, 中村聖吾(豊橋技科大), “シラスの微粒分が火山灰コンクリートの強度とワーカビリティに与える影響について”, 日本建築学会学術講演梗概集, (北海道), pp.17-18 (1986).

藤本 廣, 荒巻英次, “しらすを母材としたソイルセメントの透水異方性”, 第21回土質工学研究発表会, pp.161-162 (1986).

本間専治, “砂媒体流動層によるガラスバルーンの製造技術”, 北海道開発試験所報告, 42, pp.7-15 (1987).

角 徹三, 佐野誓治(豊橋技科大), “粗・細骨材に火山れき・シラスを使用したコンクリートの乾燥収縮特性について”, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), pp.23-24 (1987).

嘉門雅史, 澤 孝平, 友久誠司, “桜島降下火山灰の石灰・セメント系固化と焼結処理による有効利用”, 土木学会第43回年次学術講演会, pp.164-165 (1988).

角 徹三, 中村聖吾, 佐野誓治, 堀 誠治(豊橋技科大), “粗・細骨材に火山れき・火山灰を利用したコンクリートの自由収縮特性について”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.19-22 (1988).

角 徹三, 堀 誠治(豊橋技科大), “粗・細骨材に火山灰を用いたコンクリートの強度推定に関する提案”, 日本建築学会大会講演集, pp.1-2 (1988).

田原迫昭爾, 宮里満, 宮部芳照(鹿児島大 農), “農作物自動防灰装置の開発 火山灰の粒径分布と透過光量について”, 鹿児島大学農学部学術報告, No.38, pp.237-242 (1988).

角 徹三(豊橋技科大), 堀 誠治(熊谷組), “粗・細骨材に火山灰を使用したコンクリートの強度特性”, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.11, No.1, pp.59-64 (1989).

山中 昇, “シラス/アルミニウム傾斜材料の作製とその伝熱特性について”, 都城工業高等専門学校研究報告, No.25, pp.15-22 (1990).

早川勝光, 宮内正武, 前田 環, 佐竹 巖, “シラスゼオライトとカチオン界面活性剤との相互作用”, コロイドおよび界面化学討論会講演要旨集, Vol.43, pp.578-579 (1990).

早川勝光, 赤塚嘉寛, “絹糸のゼオライト処理と染色”, 鹿児島大学理学部紀要 数学・物理学・化学, No.24, pp.93-105 (1991).

操 利一, 早川勝光, “合成染料および植物染料による染色に対するゼオライト処理の効果”, 鹿児島県大島紬技術指導センター業務報告書, pp.81-90 (1991).

諫山幸男, 松下博通(九州共立大 工), “シラスバルーンを用いたポリマーセメントモルタルの物性に関する基礎実験”, 九州共立大学研究報告 工学部, No.15, pp.81-90 (1991).

松下博通, 諫山幸男(九州共立大 工), “コーティングによる天然軽石の吸水率低減効果に関する研究”, 九州共立大学研究報告 工学部, No.15, pp.91-95 (1991).

富田克利, 河野元治, 小林哲夫(鹿児島大), 神野好孝, “霧島新燃岳の火山灰について(桜島火山灰との比較)”, 粘土科学討論会講演要旨集, Vol.36th, pp.60-61 (1992).

知識正和, 富田克利(鹿児島大 理), 田中朋一(興亜火災海上保険), 河野元治(鹿児島大 農), “鹿児島県樋脇町市比野地域の入戸火砕流堆積物中の変質鉱物”, 鹿児島大学理学部紀要 地学・生物学, No.25, pp.31-43 (1992).

TOMITA K, KAWANO M, KOBAYASHI T (Kagoshima Univ., Kagoshima, JPN), KAMINO Y, “1992年に霧島火山群新燃岳から噴出した火山灰中の粘土鉱物”, 岩鉱, Vol.88, No.3, pp.114-120 (1993).

田中 穰, “火山の総合的研究の展開法に関する調査研究報告書—火山と地域産業—”, 鹿児島大学理学部地学教室 (1993).

南日本新聞開発センター, “鹿児島開発事業団史二十八年のあゆみ”, 鹿児島開発事業団 (1993).

シラスバルーン市場動向調査委員会, “シラスバルーンの市場動向調査報告書”, (財)日本産業技術振興協会 (1994).

神田 稔(山佐木材), “粉碎シラスの用途開発 機能性塗料材料の実用化について”, 塗装と塗料, No.515, pp.34-39 (1994).

知識正和(鹿児島県鹿児島響学校), 富田克利(鹿児島大理), 河野元治(鹿児島大 農), “火山ガラスからの沸石の合成 その1”, 鹿児島大学理学部紀要 地学・生物学, No.28, pp.45-61 (1995).

VSI(火山珪酸塩工業)研究会編, “新時代を築く火山噴出物その性状と利用の手引き”, (株)リアライズ社 (1995).

鹿児島県資源開発協議会, “鹿児島県の資源を見つめて30年”鹿児島県資源開発協議会30周年記念誌 (1995).

濱崎廣教(イチヂ化成), 松下博通(九大 工), 諫山幸男(九州共立大 工), “シラスの有効利用に関する研究 シラスの発泡体およびシラス軽砂の吹付けモルタル原料としての有効性”, 資源処理技術, Vol.43, No.2, pp.50-59 (1996).

河野元治(鹿児島大 農), 富田克利(鹿児島大理), “水熱反応による火山ガラス粉末からのカオリナイトの合成”, 粘土科学, Vol.36, No.1, pp.9-21 (1996).

小野寺三郎(日本航空), 井口正人, 石原和弘(京大 防災研), “火山噴火による航空機災害の防止と軽減”, 京都大学防災研究所年報, No.40, B-1, pp.73-81 (1997).

佐野武則, “シラス地帯に生きる”, 春苑堂書店 (1997).

市川敏弘(鹿児島大理), “桜島火山灰を利用した海水の浄化に関する基礎的研究”, 鹿児島科学研究所研究報告, No.8, pp.1-5 (1997).

横山久範, 林亜希美, 長谷川善一(岐阜県陶磁器試), “磁器素地の軽量化試験”, 岐阜県陶磁器試験場研究報告, pp.19-22 (1998).

松本道明, 佐合由志, 近藤和生(同志社大), “シラス多孔質ガラス膜を用いた液晶エマルジョンの調製”, 同志社大学理工学研究報告, Vol.39, No.2, pp.83-89 (1998).

松尾雄治, 奥園誠之, “しらすを用いた気泡混合軽量土の圧縮強度について”, 第34回地盤工学研究発表会(東京), pp.891-892 (1999).

進藤晴夫(山口大 農), 白井恵次, 岸野拓男(宇部短大), “河川水中の植物プランクトンを制御する新素材の開発とその制御のメカニズム(河川環境管理財団河川環境総合研究所S)”, 河川美化・緑化調査研究論文集, Vol.9, pp.103, 105-150 (2000).

秋月俊彦, 小林孝幸(長崎県窯業技セ), “強化磁器の開発研究 (3) 強化磁器の軽量化”, 長崎県窯業技術センター研究報告, No.48, pp.52-55 (2001).

岡本利章(都市交通計画研), 歌代和男(アルケメディア), 松若譲二(ライブ), 深江典之(長島特殊塗料), “土木のベンチャービジネス”, 土木学会誌, Vol.86, No.2, pp.6-19 (2001).

新留昌泰(高千穂), “仕上塗材・塗料のシックハウス対策 その2 より快適な室内環境のために—機能性塗材の開発—材料開発レポート〈調湿性〉火山灰シラス土を活用した左官材の開発”, 月刊建築仕上技術, Vol.29, No.339, pp.54-55 (2003).

横山勝三, “シラス学—九州南部の巨大火砕流堆積物”, 古今書院 (2003).

松若譲二(ライブ), “省エネルギーのための建築仕上技術 シラスバルーンを用いた水系遮熱 & 断熱塗料について”, 月刊建築仕上技術, Vol.30, No.359, pp.62-64 (2005).

坪田 実, 樋口大介(職業能力開発総合大), 中島 宏(アーキヤマデ), 長沼 桂(楠本化成), “結露防止を目的とした水性塗装系の開発—発熱用導電性塗料と断熱性塗料の壁面施工”, 塗装工学, Vol.41, No.12, pp.420-427 (2006).

大木公彦監修, 稲田 博, “鹿児島シラス百景—太古からの贈り物 鹿児島の原風景を創る大規模火砕流”, 鹿児島大学総合研究博物館 (2006).

鹿児島県土木部, “[2005年制定]シラスを細骨材として用いるコンクリートの設計施工マニュアル(案)”, (財)鹿児島県建設技術センター (2006)..

渡部 憲(東海大 工), 新留昌泰, 丸矢一夫(高千穂), “細骨材としてシラスを使用したモルタルの材料特性に関する基礎的研究”, コンクリート工学年次論文集, Vol.29, No.1, pp.801-806 (2007).

佐多秋良, “『シラス基材触媒』使用での新水処理手法の研究”, (社)土地改良測量設計技術協会学術寄稿, No.66, pp.30-35 (2007).

坪田 実, 樋口大介, 鳥羽山満(職業能力開発総合大), 中島 宏(アーキヤマデ), “結露防止を目的とした塗装系の開発—発熱用導電性塗料と断熱性塗料の壁面施工”, 職業能力開発総合大学校紀要 A 理工学・技能編, No.36, pp.171-178 (2007).

渡部 憲(東海大 工), 加藤雄介(東海大 大学院工学研究科), “細骨材としてシラスを使用した高韌性セメント複合材料の材料特性”, コンクリート工学年次論文集, Vol.30, No.1, pp.375-380 (2008).

島添洋治, 白川敏夫(九州産業大 工), “しらす砂とフライアッシュを併用したコンクリートの特性”, 九州産業大学総合機器センター研究報告, No.11, pp.13-18 (2008).

橋口智和(鹿児島大学大学院理工学研究科 大学院生), 末吉秀一(鹿児島大学大学院理工学研究科), “アルミニウムスクラップ溶湯からのマグネシウムの除去に及ぼすシラスの添加方法の影響”, 軽金属, Vol.59, No.11, pp.632-636 (2009).

渡部 憲, 佐藤史康(東海大), “細骨材としてシラスを使用した高韌性セメント複合材料”, 東海大学紀要, Vol.49, No.2, pp.59-64 (2010).